

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790400036		
法人名	三協グループ株式会社		
事業所名	第3グループホーム「やすらぎ」(喜咲庵)		
所在地	大阪市港区弁天5丁目11-20		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成25年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から2年経過し、入居者さまの間にも交流が活発に見られ、賑やかに過ごしていただけています。職員との信頼関係もできて、安心した暮らしを提供できています。また、日課に散歩を取り入れるなどして、入居者様に活気ある生活を送っていただけるように努めています。最初に開設した彩咲庵では、機能維持に向けたプログラムに力を入れ、主に日常生活動作から機能と筋力低下の防止に繋げたケアをプランに取り入れて実施しています。つづく結咲庵は、入居者様の一人一人が、その人らしく生活を送れるように環境を整えています。そして、家族のような温もりを感じていただけるように、皆様と意思を一つにして支援に努めています。8月に開設した喜咲庵は、入居者様の暮らしをご本人やご家族様と共に考えて作っていく事をコンセプトに立ち上げました。ご希望に合わせて柔軟な対応をさせて頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から徒歩10分の住宅地にある4階建ての新しいビルで、建物入口の外側のオープンスペースには木のイスとテーブルが置かれ、散歩中の近隣の方がちょっと一休みできるような気やすい雰囲気がある。中は各階に計3ユニットあり、入居者が自分の家と感ぜられるようにさまざまな工夫がされている。グループホームの基本的な理念「できることは自分でやる」姿勢は、食事の用意や片づけ、外へのゴミだし、来客へお茶を出してくださる利用者の姿などに見ることができた。また、各ユニット玄関はもちろん、ビルの出入り口も夜間を除いて常時開いていて、身体拘束のない介護が実践されている。開設3年目の若い事業所なので、まだまだ、課題も多いが、管理者とスタッフが一緒になって、利用者も家族も職員も笑顔が絶えない家にしたという、思いが伝わってくるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人研修にてグループホームの理念や意義を理解してもらい、実践に繋げるように努めている。また、毎朝の朝礼時に理念を唱和し、理念に基づいたサービスが提供出来るよう取り組んでいる。	「職員、利用者さま、家族様が心からの笑顔で結ばれる介護を実現します」という3つのグループホーム統一の理念である。地域密着型の意義を踏まえた文言は入っていない。また外部への発信もまだない。	地域密着型の意義を踏まえた文面も入れる様にされてはいいか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や町内会の出席を通して、地域の方々に当施設の認知に努めている。また、地域交流の一環として、近隣のコンビニに訪問販売を依頼している。	町内会に加入し、毎月の定例会に出席している。地域の敬老会の催しに参加したり、祭りの時には獅子舞が来てくれたりした。中学生の職場体験の受け入れをした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々の見学や相談、行事や会合を通して対応している。また、地域の役員の方々や社協とも運営推進会議を通じて地域連携について話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催時に、現状の取り組みや、ご利用者の近況状況などを報告し、その都度意見を頂いてサービスの向上に取り組んでいる。	1年間に6回開催されており、包括支援センター、地域の方も複数参加がある。家族の参加は欠席が多い。記録も適切にされているが、内容が簡潔で、実際にどんな意見交換があったのかが分かりにくい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、運営する中で些細な事でも不明な点があれば、電話対応や、直接伺い相談に乗ってもらっている。また、施設の実情なども伝えており理解を得ている。	今年度は新しいユニットの開設があったので、役所との連携は密にあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定と重要事項説明書に謳い、研修を通して身体拘束ゼロに取り組んでいる。施設の自動扉については、夜間帯の時間を除いて施錠はしていない。	すべての開口部は鍵がかかっていない。各フロアの出入り口には、ブザー音ではなく、やさしい鈴の音が開け閉めを知らせてくれる。職員は研修で身体拘束の弊害を学び、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には研修や日々の指導を通して虐待に繋がる事例を認識させて防止に取り組んでいる。また、各ユニット玄関に虐待防止のパンフレットを設置して、ご家族や来訪される方への周知に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会にて制度を学び、職員に伝達している。また、必要時には部署内や地域包括支援センターとも相談し、話し合いの機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、契約書並びに重要事項説明書の書面を基に、口頭にて詳しく説明し納得を得ている。また、質問には分かりやすい用語で丁寧に説明して同意の署名と捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットの玄関先に意見箱を設置。また、ご家族が来訪された時に近況をお伝えし、要望や意見を伺うようにしている。ニーズについてはケアプランに反映させ実施に移している。	家族の意見要望は、来訪時に聞くことが多い。毎月、個々の様子や詳しい日常記録を郵送している。家族会があるが、あまり機能していないので今後、意見、要望を聞く場として活用していきたいと管理者は考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営理念に基づく目標を設定し、面談を毎月ユニットリーダーが実施。目標に対する進捗状況に併せて、運営に関する意見や提案、疑問を聞き取り、管理者を通して介護事業部会に上げている。	運営に関する意見、提案は、業務運営に活かされており、緊急搬送時の対応方法が口頭伝達だけであったのが、職員からの要望、提案で文書としてのマニュアルを作成中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月行う面談が評価基準となり、個々が抱える問題や課題を明確にするとともに、やりがいをもって仕事に取り組めるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修受講の奨励。外部研修については行動計画書を立ててもらい、現状に沿ったスキル向上に努めてもらうとともに資格取得援助制度など支援体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者会に参加。活動内容や取り組みに関する意見交換、研修など勉強会を通してサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはご本人が不安とされている事をと伺うようにしている。ご本人の今まで生きて来られた生活スタイルや暮らしの現状などを伺い、ご本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱える悩みや不安を伺い、現状の問題点を共有することで安心いただき、問題解決に向けて相談させていただくことで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での介護が可能であるか、ご本人とご家族との面談でアセスメントさせていただき、入居による支援が必要との共通認識を得たうえでサービスを説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないことを支援させていただくことが前提との共有認識をご本人と持つ事で、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に定期的な来所をお願いし、ご本にと過ごしていただく時間を設けるようにしている。来所が難しい状況であれば、電話連絡を通してご本人との会話の時間を設けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は365日、24時間いつでも可能であり、外出・外泊も自由であるため、家族様やご友人が来訪されたり、出かれる時にはゆっくりと過ごして頂き、これまでの関係を維持できるよう支援している。	入居前には自宅訪問してこれまでの生活を知り、アセスメントシートを作成している。馴染みの場所への訪問は家族の同行を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室よりもリビングで過ごしていただける時間を増やすように心掛けている。家事の協業や団欒を通して、良好な関係を築いて頂けるよう職員がサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にも、お客様には何時でもご相談・来訪して頂けるよう声をかけており、終了後もフォローが出来る支援体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時にご本人から希望や要望を伺い介護計画に反映させている。同時に、ご家族からご本人への思いや要望を伺い、本人本位の寄り添える支援を心がけている。	センター方式のシートや個人別タイムテーブル、申し送りノートに、本人の言葉、意向を記録し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況や自宅のご様子などを確認し、アセスメントを実施。また、在宅サービス利用時の担当ケアマネより情報収集し、ご本人が暮らしやすい環境を整えられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の支援で入居者様の状態把握に努め、生活の様子や心身状態の気付きを生活テーブルに時系列で記録し、情報を共有することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様より、これからの暮らし方についてニーズを確認し、主治医や関係者などの意見も踏まえた中で、より良い生活が提供できるよう計画を作成している。	介護計画書は短期3か月、長期6か月で更新時に担当者と計画作成者がカンファレンスし評価をしている。家族と一緒に計画を話し合う場がなかなか取れないので、管理者が自宅訪問することも考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活テーブルなど個人別記録用紙や日誌などに日々の様子や気づきなどを記載し、全職員が確認した上で支援の実践に繋げている。1～3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに基づいた支援を実施する中で生まれる変化に対しては臨機応変に対応できるよう、ユニットリーダーに判断を委ねている。ご本人やご家族からの要望や希望があれば、できるだけ添えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物好きな方が多いため、近隣のコンビニに協力してもらい、月に2回訪問販売をしてもらっている。現状はほとんどの方がコンビニの訪問販売を楽しみに待っておられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は、当施設と提携している主治医により、普段の体調管理を行っているが、急変時や、他の病院を希望される場合は、希望される主治医との連携を密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	提携医(内、整、精)は毎週往診があり、24時間電話対応に応じてくれる。入所時の説明で提携医を選択する人が多いが中には以前からのかかりつけ医が往診してくれたり、家族送迎で通院する人もいる。受診結果は毎月家族に送付している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の定期訪問時に、気づいた事を伝達したり助言を頂くようにしている。また、救急や夜間等にも対応が取れるよう連携しており、安心して受診や看護を受けられる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が病院に出向き、施設での様子を書面にて説明している。また、入院中にも経過観察に伺い、退院時にはサマリーを通じて情報を頂き、提携医療機関にも伝達している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス導入時に説明し、重度化の傾向が現れれば、ご本人やご家族の意向のもと、主治医と連携を取りながら、状況に応じた支援に努めている。	入所時に常時の医療行為が必要になったら退所になることを口頭で説明している。	重度化した際の事業所としての方針を文書にして明らかにし同意をとることを提案する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応について研修を実施。ヒヤリハットの機会に振り返りや予測を通して認識を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災・避難訓練を入居者様を交えて実施している。また、運営推進会議等にも取り上げて頂き、地域での避難方法を検討している。	各階にスプリンクラー、ベランダがあり、避難経路は確保されている。昨年度の避難訓練は年1回であり、今年度はこれから実施する予定である。夜間想定訓練はまだである。	訓練はより多い方が理想であるが、最低でも年2回(1回は夜間想定)は実施していただきたい。地元の協力体制をより確実なものにする必要がある。備蓄についても考えてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に向き合う時の心構えとして個人の尊厳とプライバシーの保護を説き、研修にて接遇マナーを学ぶことにより実践している。また、毎月の面談において、実践状況を確認している。	経営者の方針として接遇を重視しており、折々に研修している。職員は利用者を人生の先輩として尊敬とプライバシーを損なわない対応に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴・受容・共感を基本に支援を実施している。また、声掛けにも入居者様の意向や思いを尊重して対応し、出来る限りご本人の意思に基づくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の体調や意向を考慮し、柔軟に対応するように心掛けている。個々のペースを尊重し、希望に沿う支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容に来てもらい、本人の意向でパーマや毛染めなどを選んで頂いている。また、各居室に洗面台を設置しており、リビングに出られる前に身だしなみを整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食卓について会話を交えながら食事をし、メニューの評価を聞くようにしている。定期に手作り日を設けて調理に加わって頂いただき、毎食ごとに配膳や下膳、洗い物など家事に関わっていただいている。	食事は委託業者が建物内1階の厨房で作っており、利用者の満足度が高い。配膳、下膳はできる人は自然に行っており、職員と一緒に食器洗いをする利用者の姿も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供。食事や水分の摂取量も記録し、体調変化の気付きや対応にも繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと義歯の手入れを支援している。また、訪問歯科により定期検診を行っており、治療が必要な方には、ご家族にも説明し了承を頂いた上で治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムやパターンを記録して把握し、誘導が必要な方には声掛けを行い、失敗がないように心掛けて入居者様に快適な排泄習慣が持てるよう支援している。	排泄は全員がトイレを使用している。半数は完全自立の人で、職員は排便チェックに工夫が必要である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を記録し、水分が不足しがちな方には声掛けを行うようにしている。定期的な散歩や適度の運動量を確保し、便秘日数を記録して状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況に基づいて個別に入浴を行っているが、体調がすぐれない時には、入浴日をずらしたり、清拭を行うなど状況に応じて柔軟に対応している。入浴時間などもご本人と相談しながら決めている。	浴室は少し広めの家庭的なもので、2面介助ができる。大きな窓が外に面していて明るい。窓の外にはすだれがかけてあり、朝顔が伝っていて風情がある。時には入浴剤で温泉気分を味わっていただくなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	タイムテーブルにて1日の睡眠状況を記録しており、生活リズムが崩れないよう支援し、安眠に繋げている。また、日中においても休息が必要な方には、状況に応じて自室で休んでいただくなど、随時対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用いて、飲み忘れや誤薬がないよう留意している。また、提携医療機関や薬剤師とも連携し、服薬時の注意点や用法などの把握に努め、書類媒体でも、すぐに対応できるよう管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や性格を基本に、能力に応じた役割を心がけて入居者様の活動意欲を引き出すよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩や買い物などを通じて外出の機会を促し気分転換に努めている。また、気候の良い時期には、入居者と相談して遠足やドライブなどにも出かけている。	毎日のゴミ出しや、近所のコンビニへの買い物など日常的な外出のほか、これからは遠足や紅葉狩りなどの行事も予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前にご家族様と話し合い、書面にて確認を頂いた上で、個々に金銭を所持して頂いたり管理をし、必要時に買い物などで買いたい物を自分のお金で買っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内には公衆電話は設置していないが、ご家族からの電話を入居者に取り次いだり、手紙のやりとりも希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、装飾品や花等を飾る事により季節ならではの雰囲気味わえるように工夫している。また、温度変化や湿度にも細心の配慮を持って対応し、居心地の良い環境づくりに努めている。	利用者が自分の家と感じられるように、構造、配置、床材、壁材など細やかな配慮がされており、本当に居心地よい落ち着いた空間となっている。1階には喫茶スペースがあり、外出気分でお茶やアルコールが味わえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースを食卓やリビングソファを織り交ぜ、ゆとりをもたせてくつろげるように配慮して、一人、あるいは複数で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や思い出のある品物を持参して頂き、ご本人にとって居心地の良い空間になるようご家族と一緒に考察している。	各個室の戸はガラガラの引き戸で墨書きの立派な表札がかかっている。中には思い出の写真や記念品などがおかれ、その人らしさを感じさせる。部屋の掃除器かけも職員の支援のもと自分でしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をあげることで、ご自身で居室が判別できるように工夫している。居室の掃除をはじめ、身の回りのことをご本人でしていただけるように支援している。		